

2019/03/24

## 「かくれんぼ」

「そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」」(創世記 3:8-10)

子どもの頃、「かくれんぼ」という遊びをしたことがあるでしょう。オニに見つからないように隠れるのですが、見つけてもらえなければ、それはそれで悲しいものです。私自身、小学校1年生の時、親に反抗して隠れたことがありましたが、1時間たっても探しに来てくれないので、悲しくなって泣き出したことを覚えています。「親に反抗して隠れる」——これも一種の「かくれんぼ」です。

人類で最初に「かくれんぼ」をしたのは、アダムとエバです。アダムとエバが「かくれんぼ」をした理由は、自分が裸であることを知り、恥ずかしかったからです。その二人に、神様は「あなたはどこにいるのか」と呼びかけました。

### ■なぜ「かくれんぼ」をするのか

人間は、誰もが人に見られたくないところを持っています。「恥ずかしい」「見られたくない」と思うのは、こんな自分はダメなものだと思っていることの表れです。ありのままの自分では受け入れてもらえないと思うために、「かくれんぼ」をしてしまうのです。来客があるからと家を片付けたりするのもその表れです。誰もが「かくれんぼ」をしています。

たとえ話で考えてみましょう。ある若い男女がいました。お互いに相手のことが好きだったのですが、「こんな自分を相手が好きになってくれるはずがない」と思い込み、本音を伝えることができずにいました。やがて、二人にそれぞれ縁談が持ち込まれ、お互い好きな相手に気持ちを伝えることができないまま、勧められた相手と結婚することになりました。「自分はダメなものだ」「ありのままの自分では受け入れてもらえない」という思いによって、それぞれが全く望まない行動に進んでいったのです。

このように、相手に拒否されるだろうと思い込み、本当のことが言えない経験は、誰もが持っていることでしょう。それが「かくれんぼ」です。

また、私たちは罪を隠そうと、「かくれんぼ」をしています。人は皆罪を犯すのですが、自分の罪を隠すのにいちばん良い隠れ場所は、道徳や倫理です。立派なことをして評価されれば、罪はなかなか見つけられません。しかし、実はその裏には全く別の自分がいるのです。イエス様はパリサイ人達のことを「白い墓」と言われました。墓石は整備され、表面上は美しい場所ですが、その下には腐敗した遺体が埋まっています。

道徳や倫理に自分を隠す他にも、肩書で本当の自分を隠したり、人を批判する評論家になったり、人を裁くことで自分は正しいと主張して自分を隠す人もいます。こうして、どこが自分にとって心地よい場所かを探しながら生きているのです。

嫌われるかもしれないと思って本音が言えず、みんなが望まない方向に行ってしまう……イギリスEU離脱問題も、第二次世界大戦の開戦も、そのような様子が見受けられます。

私たちが隠れるのは、こんな自分を誰が受け入れてくれるのだろうかという不安があるからです。その問題の根っこは、皆が自分のことをダメなものだと思って苦しんでいるところにあります。子どもが親に反抗するのも、自分を立派に見せようとするのも、互いに裁き合うのも、肩書を誇り傲慢になるのも、すべて「かくれんぼ」です。本当の自分は愛されるはずがないと思っておびえているのです。

## ■神はあなたを引き出す

「こんな自分を知られたくない」と思って「かくれんぼ」をしている私たちですが、幼い頃は誰もが、思うまま、感じるままの自分を隠すことなく生きていました。しかし、親に叱られ、受け入れてもらえたかった経験を通して、私たちは傷つき、「かくれんぼ」をするようになったのです。ですから「かくれんぼ」をしている私たちは、本当は今も同時に「ありのままの自分を受け入れてほしい」と思っています。本当は、「こんな『かくれんぼ』したくない」「自分を隠しているここから出してほしい」と願って泣いているのです。

「かくれんぼ」をしているアダムとエバに向かって、神様は「おまえはどこにいるのか。」と呼びかけました。神は、私たちを「かくれんぼ」から出そうとして、呼びかけてくださるのです。なぜなら、神はあなたを受け入れておられるからです。

世の中は、ありのままのあなたを受け入れてはくれません。しかし、神は反対に、世の中で「かくれんぼ」をしているあなたを受け入れることはありません。本当のあなたを受け入れてくださいます。なぜなら、あなたは良きものだからです。「無条件で神に受け入れられるもの」……これが、良きものの定義です。

神が私たちをどんな状態であっても無条件で受け入れるのは、ご自分で良きものとして造ったことを知っているからです。ですから、「あなたはどこにいるのか。出てきなさい。」と呼びかけるのです。

アダムは神の声を聞いても、「恥ずかしい」「こんな自分を受け入れてもらえるだろうか」と葛藤しました。しかし、自分を隠すことに耐えかね、ついに神の前に出て、「恐れて隠っていたのだ」という本当の気持ちを告白しました。これが信仰なのです。信仰とは、神の呼びかけに対して応答することです。

神は私たちに、「重荷を負う者は私のところに来なさい」と呼びかけておられます。それは、「あなたは良きものだから、ありのままで受け入れる」というメッセージです。この世で罪を犯したら、この世の裁きは受けなくてはいけません。しかし、神はそれでもあなたを裁かず、罪を赦してくださいます。神は罪人であっても拒否したりはしません。

そもそも罪という概念は、人と人との関わりの中で生まれる概念ではなく、神との関わりの中で成立する概念です。神が私たちを造り、私たちを生かしておられるのであり、その神に対して私たちはどう生きるのかがいつも問われています。ただし、私たちが犯している罪を問うことはありません。なぜなら、私たちは良きものだからです。良きものゆえに、神は、私たちを苦しめる罪を赦さないです。これが神の怒りです。神の怒りとは、人に対する怒りではなく、罪に対する怒りです。神は、病氣で苦しむ我が子を見て、病氣に対して怒りを燃やし、なんとしてもその病氣を排除しようとさせたのです。罪を犯すと自分が排除されると誤解している人がいますが、決してそんなことはありません。神はあなたを愛するがゆえに、あなたを苦しめるものを嫌うのです。神は罪を赦す方であり、あなたを裁きません。神はとにかくあなたをそのままで受け入れ、心配しなくとも、私はあなたを裁かず、味方になります、あなたを支えると約束してくださっているのです。

ところが、世の中で受け入れられなかった経験によって、自分はダメなものだと思って「かくれんぼ」てしまいます。その私たちに対して、神は「あなたはどこにいるのか」と言い続けておられるのです。その声に応答して一步を踏み出す時、神が自分を受け入れてくれる事を初めて知ることができます。この体験こそが私たちの人生を変えるのです。神が自分の味方であり、自分を引き出してくれることを知れば、人生の組み立てが全く変わることです。

## ■引き出されたペテロ

ペテロは、イエス様の前で一生懸命頑張り、弟子達もペテロを一番弟子だと認めていました。ところが、イエス様が十字架に架けられる時、ペテロはまさに人混みの中に自分を隠してイエス様について行きました。「自分も捕まつたらどうしよう」という不安のために、身を隠さなければイエス様についていけなかつたのです。

みじめさ、つらさを感じながら、ついていったペテロでしたが、結局イエス様の仲間であると指摘されてしまい、ペテロは必死になってイエス様なんか知らないと言い張りました。しかも、このやり取りは3度も繰り返されたのです。「イエス様と一緒に死ぬこともいとわない」と公言していたにも関わらず、自分を隠してイエス様を裏切り、ペテロの魂は、ついにつらさに耐えることができなくなってしまいました。この時、ようやく彼の魂は神の呼びかけに応答することができたのです。

ペテロが「こんな自分を受け入れられない」という思いに耐えられなくなり、魂が神の呼びかけに応答した時、ペテロは自分を見つめるイエス様に気がつきました。「心配しなくてよい。私はあなたを愛している。あなたの罪は赦されているから。」と、イエス様が自分を受け入れてくださっていることを体験して、ペテロは涙があふれたのです。

私たちに必要なのは、かくれんぼをやめて神の前に出ることです。かくれんぼしても幸せはありません。神が引きずり出してくださり、初めて真の平安を手にできるのです。神がそうしてくださるのは、私たちが良きものゆえです。私たちは、自分がダメなもの

だと思い込み、愛されるはずがないと思い込んでいますが、神はあなたを愛しておられます。その証が十字架です。

「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」（ローマ 5:7-8）

私たちの人生もペテロと同じです。自分自身で隠れ、「神など必要ない」「知らない」「自分でできる」「ほっといてくれ」と拒否し続けているのですが、神は「あなたは良きものだ。」と、絶えることなく呼びかけ続けておられます。そのことを、言葉でなく身をもって示したのが十字架。

イエス様は私たちがかくれんぼをやめるために十字架に架かられました。人は皆、罪人であるからこそ隠れ、罪人ではない振りをしていますが、それでは苦しむだけで平安を得ることができません。あなたのために十字架にかかるほどに、神はあなたを愛し、あなたを受け入れておられるのです。「あなたは良きものだから。心配しないで、隠れていないで出てきなさい。」と神はあなたに呼びかけ続けておられます。

かくれんぼをやめ、神のもとに一步踏み出しましょう。これが信仰です。この信仰によつて私たちは神の愛を知り、自分の中にあったつらさから解放されていくのです。